

人間活動と環境保全との調和に関する研究 一人と自然が共生する持続可能な地域づくり、自然災害と環境保全

1. 助成の主旨

ニッセイ財団では、21世紀の社会が活力あふれる真に豊かな社会となるためには、調和のとれた社会・自然環境に支えられた、活力と創造性ある人間性豊かな生活環境を一層確立していくことが重要と考え、豊かな人間生活にとって欠かせない基盤の一つである環境の改善・充実に資する研究に対し、助成を行います。

2. 助成研究の区分と募集課題

○学際的総合研究

①課題： [人間活動と環境保全との調和に関する研究
一人と自然が共生する持続可能な地域づくり、自然災害と環境保全]

②研究の期間：平成29年10月から平成31年9月までの2年間

③研究募集の趣旨：

- ・冒頭の助成の主旨に鑑みて、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」を募集課題として毎年テーマを設定してきましたが、今年度につきましては、以下の**2つをテーマ**として学際的総合研究を募集します。両テーマとも「**人間活動と環境保全**」に深く繋がっており、相互に関連する研究も募集対象といたします。これらのテーマについて、従来の課題に対する解決策のみならず、人口減少・高齢化等といった現在直面する社会現象も踏まえながら、**新たな課題を掘り起こすことも視野に入れた取り組み**を期待します。
- ・ i) 「**人と自然が共生する持続可能な地域づくり**」～ 過疎化・高齢化等により農山村が衰退し、里地里山における人間活動も縮小するなか、農山村が果たしてきた自然環境の保全力が弱まり、生態系がもつ多くの機能の劣化に繋がっています。人と自然との豊かで持続可能な関係を築いていくためには、農山村の環境保全と地域社会の再生は欠かせません。生態系の機能回復、第一次産業の今後の取り組み、地域コミュニティの維持再生などは、自然共生社会の実現に向けた大きな課題です。
一方、都市部においては、人口と産業の集中による環境負荷の増大が都市問題として多くの課題を提起している反面、人口減少や産業の衰退による無秩序な縮減と環境の悪化がみられる都市もあります。真に豊かな社会を持続可能な形で維持発展させていくには、自然環境と調和した自然共生型の都市づくりが求められます。
これら、農山村や都市における課題の解決を図り、自然と共生した持続可能な社会の形成に資する研究を募集します。
- ・ ii) 「**自然災害と環境保全**」～ 近年、気候変動と相俟って自然災害が我々の生活に及ぼすリスクが増大しています。被災リスクの抑制や災害被害の減少に、工学的手法のみで対処するのではなく、自然環境・生態系の保全再生を通じて、それらが有する防災・減災機能を十分に活用していくことの重要性が高まっています。また、災害からの復旧・復興についても、生態系との

調和を図った持続可能なまちづくり、社会づくりが求められており、これらの課題解決に資する研究を募集します。

- ・この学際的研究では、取り上げた研究課題に対し**学問領域の枠を超え学際的・総合的な研究として、多方面・他分野の大学研究者と地元自治体、更にはNPO・NGO・地域住民等の実践活動者などが協働して推進する他分野協力型、実践型、提言型の研究**を期待しています。

「研究課題に関するキーワード（例）」

① 人と自然が共生する持続可能な地域づくり

生物多様性の保全、生態系サービスの価値評価
流域内のつながり（森川里海）、生態系ネットワーク
農山村コミュニティの維持、伝統知の継承
中山間地域の課題とコモンズ、野生動物問題
自然資源経済、地域資源の活用、地産地消
都市と緑地・ランドスケープ、コンパクトシティ
都市と農村・中山間地域との連携 等

② 自然災害と環境保全

グリーンインフラストラクチャー、Eco-DRR
水害・土砂災害の多発、森林・農地の荒廃と復旧・整備
レジリエンスの強化、災害に強い地域づくり 等

○若手研究・奨励研究

① 課題

- ・ニッセイ財団研究助成の主旨（上記1.）を踏まえた研究とし、特に課題を設定しませんが、「人間性豊かな生活環境の確立」に役立つ、着想豊かな新しい分野への挑戦的研究を期待します。

② 応募資格の制限

- ・年齢は45歳以下（昭和47年4月1日以降生まれ）とします。
但し、学生（院生を含む）には応募資格はありません。

③ 研究の期間

- ・平成29年10月から平成30年9月までの1年間

④ 研究募集の趣旨

- ・本財団の研究助成の主旨に基づき、幅広い視野に立つ研究を募集します。その研究を踏まえて更に次のステップに発展し得るような**若手研究者の基礎的な研究や萌芽的研究から、新しい分野への挑戦的研究まで、幅広く募集**します。

3. 成果の公表・普及について

- ・本助成では研究の遂行と並び、助成による研究成果の公表・普及を図ることが重要であり、研究成果・提言が社会に受け入れられ、実践されて、はじめて「環境問題への具体的貢献」であると考えています。
- ・このため当財団では、市販を想定した研究成果出版物の刊行を支援する成果発表助成、助成研究の成果を報告・討議するワークショップの開催、「財団ホームページ」への研究報告書の掲載など、助成成果の公表・普及や環境問題の啓蒙に、特に力を入れています。研究助成を受けて研究を遂行した後、その成果の刊行も計画されている方は成果発表助成活用を積極的に検討ください。

公表・普及の詳細については財団ホームページをご覧ください。

URL <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp>

4. 本年度募集の概要

本年度の助成概要は下表のとおり

区 分	学際的総合研究	若手研究・奨励研究
課 題	人間活動と環境保全との調和に関する研究—人と自然が共生する持続可能な地域づくり、自然災害と環境保全—	ニッセイ財団の「助成の主旨」を踏まえた環境問題研究で、若手研究者の基礎的研究・萌芽的研究や新しい分野への挑戦的研究 (特に課題は設定していません)
助成金 総額	4千万円程度 (予定)	
1 件当たり 助成額	(2年間分) 1000万円～1500万円	50万円～150万円
助 成 期 間	平成29年10月から2年間	平成29年10月から1年間
申 請 書	学際的総合研究助成申請書	若手研究・奨励研究助成申請書
応 募 締 切	平成29年4月3日(月)〔消印有効〕	
助 成 の 決 定	当財団選考委員会にて選考の上、9月の理事会で決定	

助成対象とならない研究 <学際的総合研究、若手研究・奨励研究 共通>

- 営利を目的とした研究、営利につながる可能性の大きい研究
- 他の機関から委託を受けている研究（予定を含む）
- 海外出張のみを経費内容とする研究
- 技術開発・教材開発中心の研究

募集要項のPDFファイルと申請書のPDFファイルおよびWord（Windows）ファイルを、ニッセイ財団ホームページよりダウンロードすることができます。また、ダウンロードした申請書を用いて申請することができます。

URL <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp>

5. 応募資格

- ・ 代表研究者の国籍・所属や資格は原則として問いません。ただし、以下に該当する人は代表研究者にはなれません。

- 海外居住者
- 営利の追求を目的とする機関（企業）に所属する者

代表研究者は、当該研究組織を代表し、その中心となって研究のとりまとめを行ない、研究助成金の管理及び報告事務等を含めて、研究計画の推進に責任を持ちうる人としてします。

6. 助成金の使途

- ・ 研究計画の遂行および取りまとめに必要な資金で、後掲の「研究助成金費目一覧」（P6）のとおりとします。

7. 応募手続

当財団所定の申請書に記入押印し、作成した申請書の**原本1部（片面印刷）**に**コピー2部（両面印刷）**を添付して、下記の当財団宛に送付ください。

- 申請書は日本語で記入してください。
- 記載紙面の追加・規格外の紙面の使用ならびに申請書以外の資料添付は認めません。
- 申請書コピーは両面コピーで（1ページ目の裏が2ページとなるように）作成願います。
- 申請書は原本、コピーとも**左上部ホッチキス止め**としてください。
- 申請書を財団にて受付後、電子メールまたはハガキで受領の通知をいたしますので、未着の場合はご確認願います。

- * 申請書記載等の個人情報については助成選考時に使用します。また、助成決定分については助成結果の公表時に使用します。

8. 選考方法

- 当財団での数度にわたる選考委員会において厳正かつ公平に選考を行い、平成29年9月の理事会で最終決定の予定です。
 - (1) 「採」・「否」の結果は、申請者全員に文書で通知いたします。
 - (2) 「採」・「否」の理由に関しては、お問合せに応じかねますので、予めご了承ください。
- なお、選考の結果、より充実した研究成果を挙げるため研究対象・方法の変更、研究メンバーの補強などを助成の条件とすることがあります。

9. お問合せ先（申請書の送付先）

〒541-0042	大阪府中央区今橋3-1-7	日本生命今橋ビル4F
	ニッセイ財団 環境問題研究助成 事務局	
	TEL (06)6204-4012	FAX (06)6204-0120
ホームページ	http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp	

研究助成金費目一覧

費 目	説 明
(1) 研究補助者経費 研究協力者謝金 研究作業者謝金	共同研究者以外の外部協力者からの助言、協力に対する謝金 研究活動に必要な資料、実験、測定、実態調査等の研究補助作業者に対する謝金（実験要員、観測員、採取・採集者、車輛運転手、タピスト等の臨時雇の作業従事者に対する謝金）
(2) 旅行経費 国内旅費 海外旅費	片道100kmを越える出張（調査、会議出席）にともなう交通費、宿泊費、雑費 研究のための出張にともなう交通費、宿泊費、雑費（海外渡航にともなう手数料、保険料、税金等を含む）
(3) 調査・機器経費 調査委託費 コンピュータ費 機器・備品費	アンケート調査、データ集計、実験等を外部に委託する場合の経費 コンピュータ・プログラム開発、データ処理、コンピュータ使用料、プログラム借用料等の経費 研究に使用するための1点5万円以上の機器、備品費（機器の取付費も含めることができる）
(4) 資料・印刷経費 図書購入費 資料費 印刷・複写費	研究のための書籍、論文等の購入費 研究のための写真、マイクロ・フィルム、各種テープの経費 研究のための調査票・集計表等の印刷費、書類の複写費 研究報告書の印刷費用 （但し、研究終了後半年以内の作成が見込めること）
(5) 会議経費 会場借用費 会議交通費 会議雑費	会議会場として借用する場所の不動産借用料 会議に参加するための交通費、雑費（片道100kmを越える場合は旅行経費にて支出する） 会議の際の茶菓子、弁当代、通信費等
(6) 研究施設経費	研究所、実験室等の不動産借用料、光熱水費、雑費等、 研究所、研究室・実験室等の維持費（研究組織の一般管理費は認められません）
(7) 通信・運搬経費	研究のための交通費（片道100km以内の移動の場合）、通信費、 機器運搬費
(8) 消耗品経費	研究のための一般文具用品、試薬・試料、実験のための部品等の消耗品費および1点5万円未満の機器・備品費
(9) 雑経費	動物・植物の飼育費用、翻訳料、速記料、調査対象者贈答品費、 調査対象機関謝金、設備・機械・器具等の保守管理費、研究集会参加費その他の経費

(注) 次の経費は認められません

- 代表研究者・共同研究者の人件費
- 研究組織の運営管理に必要な一般管理費
- 研究成果の発表を目的として行う出版物の刊行費用（別途、成果発表助成制度で対応します）
- 大学等の研究室に通常配備されている機器・備品類（パソコンを含む）への支出は認められません
- 研究計画に記載のない旅費への支出も認められません

<ご参考>

平成28年度 環境問題研究助成 助成対象研究一覧

◇学際的総合研究助成

平成27・28年度募集課題:「人間活動と環境保全との調和に関する研究－自然環境の保全と農山村の再生・持続可能な地域づくり、都市・生活環境の改善と持続可能な社会づくり－」

代表研究者	研究課題 (研究期間・助成金額)	本年度助成額 (単位:万円)
1 小林 久 茨城大学農学部・教授 (他計9名)	社会参加の再生可能エネルギー開発を起点とする農山村コミュニティの自立・持続戦略 (平成28年10月～平成30年9月・1200万円)	600
2 松岡 俊二 早稲田大学国際学術院アジア太平洋研究科・教授 (他計8名)	環境イノベーションの社会的受容性と持続可能な都市の形成 (平成27年10月～平成29年9月・1000万円)	500

合計 2件 1,100万円

◇若手研究・奨励研究助成

代表研究者	研究課題	助成額(単位:万円)
1 赤 潤 芳 宏 名古屋大学大学院環境学研究所・准教授	ナノ材料の潜在的リスクの法的な管理はいかにあるべきか －北米諸国を対象とする比較法研究に基づいた法制度の提言	130
2 綾 部 慈 子 名古屋大学大学院生命農学研究科・研究員	ジョロウグモを用いた放射性セシウムによる福島県森林域汚染と可給態放射性セシウム循環量の評価	90
3 石 村 学 志 岩手大学農学部・准教授 (他計2名)	六次産業化における漁業独自の課題抽出と理論構築:三陸漁業での社会実装探求	130
4 石 山 信 雄 北海道大学大学院農学院・学術研究員 (他計2名)	都市緑地を用いたエコロジカルネットワークの管理指針の検討:両生類を指標とした景観遺伝学的アプローチ	90
5 今 井 伸 夫 東京農業大学地域環境科学部・准教授	低インパクト伐採が熱帯林のリター分解に及ぼす影響	120
6 今 西 純 一 京都大学大学院地球環境学堂・助教 (他計2名)	外国産在来種ヨモギおよびメドハギを用いた緑化による遺伝的攪乱リスク評価	80
7 大 野 智 彦 金沢大学人間社会研究域法学系・准教授 (他計3名)	ダム撤去は流域社会にどのような影響を与えるのか? 質的社会調査と流域環境史からの多面的把握	100
8 奥 島 真 一 郎 筑波大学システム情報系社会工学域・准教授 (他計3名)	地球温暖化政策とエネルギー貧困	110
9 勝 見 尚 也 早稲田大学理工学術院環境資源工学科・助教 (他計3名)	微量元素-安定同位体マルチトレーサーを用いた東京都心のゲリラ豪雨の実態解明	130

	代表研究者	研究課題	助成額(単位:万円)
10	川村喜一郎 山口大学大学院創成科学研究科・准教授	マイクロプラスチックによる深海への汚染状況調査	80
11	窪田恵一 群馬大学大学院理工学府・助教 (他計2名)	微生物燃料電池による産業廃水処理の創エネ・低コスト化に関する研究	120
12	木庭啓介 京大大学生態学研究センター・教授 (他計4名)	最先端窒素酸素同位体比測定による大阪湾における脱窒の検討	120
13	曾我部篤 弘前大学農学生命科学部・助教	海洋投棄された廃タイヤによるヤドカリのゴーストフィッシングの実態解明	80
14	滝澤玲子 京都大学野生動物研究センター・特定助教	生物多様性のホットスポット(やんばるの森)における生活文化と資源利用—伝統知の解明と継承に向けて	110
15	千坂光陽 弘前大学大学院理工学研究科・准教授	ゼロエミッション燃料電池車本格普及のための非白金触媒開発	120
16	戸敷浩介 宮崎大学地域資源創成学部・准教授 (他計4名)	窒素の需給バランスが地域社会の持続可能性に与える影響に関する研究—宮崎県の農畜産業と農山村地域を中心に—	120
17	富山毅 広島大学大学院生物圏科学研究科・准教授	小規模干潟の底生生態系に及ぼすグリーンタイドの影響評価	110
18	鳥羽陽 金沢大学医薬保健研究域薬学系・准教授 (他計3名)	能登半島を反応場とする越境大気汚染物質の変質と毒性化に関する研究	100
19	奈良郁子 名古屋大学宇宙地球環境研究所・研究機関研究員	地球温暖化が引き起こす大規模水害発生の可能性—東アジア地域における大規模水循環変動の理解—	130
20	服部祥平 東京工業大学大学院物質理工学院・助教	三酸素同位体組成を指標とした大気汚染に伴う大気酸化力の変化の解析	120
21	平尾茂一 福島大学環境放射能研究所・講師 (他計2名)	野生生物の被ばく線量推定手法の高度化を目指したイノシシの体内放射能濃度の決定要因の解明	120
22	VINCENOT, Christian 京都大学大学院情報学研究科・助教	琉球諸島における伝統的農業と絶滅危惧種クビワオオコウモリの共存を目指して	100
23	本多了 金沢大学理工研究域・助教 (他計2名)	選択的次世代シーケンス解析を用いた薬剤耐性遺伝子保有細菌プロファイルによる糞便汚染発生源推定	140
24	山口敬太 京都大学大学院工学研究科・助教 (他計2名)	重要文化的景観の保護に係る公共事業の景観デザイン調整手法の開発に関する研究	110

	代表研究者	研 究 課 題	助成額(単位:万円)
25	山 本 俊 昭 日本獣医生命科学大学獣医学部・准教授 (他計2名)	サクラマス <small>の</small> 放流魚 <small>における</small> 生活史初期 <small>の</small> 分散様式	100
26	利 谷 翔 平 東京農工大学工学部・助教	乾式メタン発酵による稲わらと二酸化炭素のメタンへのリサイクル	140
合計			26件 2,900万円